

の2点。来訪者数は最多日で約1万人超、全体で7万人、また宿泊者数は最多日で1,200人の見込み。市内の宿泊能力は26施設、1,441人の収容人数であり、そのうち団体に提供できる収容人数は934人。市内のホテル、旅館に対しより多くの客室を提供いただけるよう呼びかけたい。

### 通学路の安全対策について

田中 守議員

**Q** 通学中の子どもが被害に遭う交通事故が相次いでいることを受け、市P連からの要望のうちカーブミラー設置など即応できる整備に取り組む3千万円の補正予算案が出された。より良い安全対策のためには各団体が「通学路安全対策協議会（仮称）」を設置し現場に合った対策を講じる必要があるのではないか。

**A** 登下校における道路にはいろいろな事情があり、危険な箇所が潜んでいる。PTA、健全協などで立哨していただいている。その強化を図るために市も教育委員会等と連携をとりながらバックアップをしていきたい。また、現場に関係者が行つて警察にも来ていただき、情報の共有をし危険性を訴え協議していきたい。

### 通学路の安全対策について

古閑森 秀幸議員

**Q** 市道富の原3号線は竹松小学校の通学路となつていて、近年黒丸地区に住宅地が広がり学童の数も増え、また本道路は慢性的に抜け道化し、朝の通学通勤時は大変危険な状態になつていことから、富の原3号線に対し早急な対策を講じてもらえないか。

**A** 縁石や防護柵で車道と歩道を分離する方法が最も望ましいが、車道幅員が狭くなることでの接触事故や離合に支障をきたすなどが懸念される。安全対策として路測線の路面表示や安全確保の方法について、今後、警察や地元自治会と協議を行つていきたい。

### 通学路の安全確保について

廣瀬 政和議員

**Q** 通学道路の安全を確保するため、子ども達への交通安全対策（教育）と、通学道路の指定と日常の安全点検の取り組みは、どうされているか。また、鈴田小PTAから陳情があつているスクールゾーンの新たな指定や消

えかかっている表示の修復、鈴田出張所から農集施設までの歩道の設置ができないか尋ねる。

**A** 子どもたちの交通安全対策は、各学校での教師の指導や、各学校区で組織される学校支援会議による見守り、パトロールなどの活動、通学路の安全点検等による。スクールゾーンは、学校を中心に半径500mの範囲内に、車両の通行禁止、一方通行、一時停止、速度制限等の交通規制を登下校の時間帯に設定するもの。補正予算で鈴田小学校前の交通安全対策事業を行う。

### ALT（外国語指導助手）について

城 幸太郎議員

**Q** 経済や情報のグローバル化が急激に進む現在、英語は必要不可欠な言語になつている。小学校での外国語活動がスタートして4年目になり、当市でもALTの増員を図り、英語力の向上に力を入れているようだが、現状と展望はどうなつているのか。また適任者の再雇用は考えられるのか。

**A** ALTの任用は平成6年から始めている。聞く、話すに力を入れて総合的な英語学習を

やっていくことを目的に、現在、13名のALTを市内全小中学校に派遣している。今後も、子供達がALTから外国の習慣とか文化を学習していけるように、ALT及びコーディネーターや教職員が連携を強化して取り組んでいきたいと考えている。

### 小学校を新設する計画はあるのか

水上 享議員

**Q** 竹松地区の小学校は富の原小学校28クラス882名、竹松小学校30クラス926名であり、市内児童数の約3割を占めている。また、竹松小学校は県内でも2番目の大規模校であり、ここ数年においても児童数の伸びが予測される。新設校の場所及び用地確保についても大きな課題であり、早急に検討すべきだ。

**A** 現時点では新しい学校を新設することは考えていないが、今後3年ぐらいの間に組み込むべきと思つている。場所についても3カ所ぐらいを想定して検討する時期に来ていと思う。どういつまちづくりを進めていくか市民を挙げての大きな議論は必要だと思つ。今後早急に意見集約を図れるように準備を進めたい。